

歩いて楽しい城下町へ



写真：8年前のポスターや公選はがき。
(新・土佐日記 2011/5/19 より)

8年前の選挙、松坂は政見公約のメインに『歩きやすい街』を訴えており、選挙公報では「中心市街地は歩行者優先。公共交通を充実させ車との共存を工夫します。市役所建て替えは人の集う大手広場の整備とセットで考え、島原城周回遊歩道を提案します。」と謳っていました。

本報告書の次のページで4年前の政見公約（マニフェスト）を検証していますが、そこにも、最重点公約として『歩いて楽しい城下町』を訴えています。

事実、松坂の毎回の一般質問はもちろんのこと普段の議員活動でも『歩いて楽しい城下町』に注力してきました。

もともと「まちづくり」がライフワークなので、商店街活動はじめ普段の活動がすべて『歩いて楽しい街』につながっています。

雲仙普賢岳噴火災害後の島原の復興を願って、島原では「まちづくり」の機運が高まりました。松坂の属する森岳地区（森岳商店街）では、『森岳まちづくりの会』を立ち上げ、「島原城に武者のぼりを上げよう」「島原ぶらりさる記：街並ウォッチング」など様々な活動をしてきました。

森岳商店街で整備した街路灯は、街歩き

を楽しむ市民・観光客向けに観光案内や島原ゆかりの短歌俳句を紹介しています。七万石坂の（背の高い）街路灯は、既に電線の地下埋設を実現しています。他の電線や電話線は手付かずでしたので、見た目の効果はほとんどありませんでしたが、近い将来「電線地中化」を実現したいという森岳商店街の意思表示でした。

お堀の周りの（お堀側の）遊歩道化も折に触れて訴えてきました。多くの市民がウォーキングに、中高生がランニングに、何よりも観光客も車を気にせず安心して歩けるように。

『幻の廊下橋』も『島原城秋のレンコン掘り大会』もそんな思いを背景に開催してきました。

そして、築城400年を機にいよいよ『堀の周りの遊歩道と電線地中化』が現実になろうとしています。

武家屋敷通りを残す決断

せせらぎの音を聞きながら歩ける土の道「武家屋敷通り」は貴重な観光資源です。

しかし高度成長期（1964年頃）に決定した都市計画では、現在国道251号（すき家）から一小と文化会館に抜ける鉄砲町宮の町線（通称二の丸坂）は、時鐘楼をつぶし、武家屋敷通りを突っ切って、長池三会線までつなぐことになっていました。

このままでは歴史遺産が無くなる！と、2015年都市計画は見直され、お堀より山側の部分の計画は廃止されました。

2016年には、島原城跡の広い範囲を県指定文化財として登録しました。城下町を残す決断をした。と言っていいでしょう。

新たな人工構造物は制限されるなど制約もありますが、本物の歴史を生かした歩いて楽しい城下町にしたいものです。